

第1回 向日市子ども・子育て会議 議事要点録

○日 時 平成25年11月21日（木）午後7時から午後9時まで

○場 所 向日市役所3階 大会議室

○出席者 (委員)

青木 賀代子委員、安藤 和彦委員、今井 弥生委員、岡崎 真理委員
風谷 千賀子委員、川原 真理子委員、櫻井 成委員、白川 香澄委員
高橋 一功委員、高山 紀公子委員、田中 利和委員、田中 益一委員
田中 久美子委員、田渕 尚子委員、築山 剛委員、津田 陽委員
宮地 健一委員（50音順）

※三沢 あき子委員 代理 安岡 氏
山近 勤委員 代理 山本 氏

(事務局)

植田健康福祉部長、鈴木健康福祉部次長兼福祉政策監、宮田健康福祉部
次長兼健康推進課長、松下子育て支援課長、里見子育て支援係長
東田第2保育所長、大島主任保育士、栗山教育部長、山根教育部次長兼
教育総務課長、坂野生涯学習課長

○欠席者 (委員)

花安 肇委員

○内 容 下記の通り

1 市長あいさつ

2 委嘱状交付

市長から、委員となった20名の方（欠席1名は別途）に委嘱状が交付された。

3 委員等紹介

事務局から委員の紹介がなされた。

4 議 事

(1) 会長の選任

委員の互選により、下記のとおり決定した。

会長 安藤 和彦 委員

(2) 会議の公開について

事務局から向日市情報公開条例第6条の趣旨に基づき、会議の公開及び議事録の公表等について、原則公開する旨が説明され、特に意見等もなく了承された。また、会議録についても、ホームページで公開することとなった。

(3) 子ども・子育て支援新制度について

「資料⑤ 子ども・子育て支援新制度の概要」について事務局から概要が説明され、その後意見交換が行われた。

【意見の要旨】

委員：資料中に幼稚園の入園などに関して、新制度では保育の利用と同様に、市町村の窓口に申請して保育の必要性の認定を受ける必要があると記載されているが、最新の情報では、それが省略できることとなっている。

事務局：内容がどんどん変化しているので、今後の会議でも、最新の情報を伝えられるようにしていきたい。

(4) 子ども・子育て会議の予定スケジュールについて

「資料⑥ 子ども・子育て会議 開催スケジュール（案）」に基づき、事務局から会議スケジュールの概要説明がなされ、意見交換の後、概ね原案どおり承認することとし審議の進行状況を踏まえながら、柔軟にスケジュールを調整していくことで了承された。

【意見の要旨】

委員：市として、既存の保育所や今後の認定こども園の扱い方をどのように考えているのか。子育て支援の価値観をどこに向け、保護者の費用負担も考えた上で、今後提示される公定価格からどうしていきたいのか。

事務局：今ある幼稚園や保育所などに関して、新制度に向けてどうしていくかについては、園の意向などもお聞きするとともに、ニーズ調査の結果を踏まえて検討し、この会議で諮って行きたい。

委員：幼稚園や保育所における“教育・保育”の概念を議論していく必要があると思う。また、幼稚園や保育所に通わない在宅児にも目を向けていく必要がある。ワークライフバランスについても考えるいい機会だと思うので、今後この会議で議論したい。

事務局：今後、会議の進め方の参考にする。

(5) アンケート調査について

「資料⑦ 子ども・子育てに関するアンケート調査の概要 及び 別添 アンケート調査（案）」について事務局から概要が説明され、その後意見交換が行われた。

【意見の要旨】

委員：国や府のたたき台に市独自の設問を加えたことで、総ページ数が26頁あるが、量が多いと感じる。食育について、この調査で触れる必要があるのか。他市町村の進捗状況も知りたい。

事務局：5年前の次世代育成行動計画策定の際に行ったアンケート調査は合計21頁だったので、今回は案のとおり26頁のボリュームとした。食育については、市の食育計画の見直し期間であることから、今回、同時にアンケートをさせていただきたいと考えている。他市町村の実地状況について、京都市、宇治市などが送付済であり、11月下旬には大山崎町が発送予定である。国・府のたたき台をそのまま使用した市町村と、それにプラスアルファとして独自の設問を加えた市町村がある。どの市町村も、おおむね20頁は越えている。

委員：小学校の児童用のアンケートの配布は800世帯を予定されているが、実際、2,059世帯(小学1年生～4年生の世帯数)あることを考えると、少ないのではないか。

事務局：配布枚数については予算と相談したうえで、可能なかぎり増やしていきたい。

委員：アンケート集計の公表はせず、策定のために使用するものなのか。

事務局：途中経過や結果のみなど公表の仕方については検討中であるが、ホームページなどでの公表を考えている。

委員：新制度の説明やアンケート調査の趣旨を明確にした方が、回答しやすいのではないか。記載の文言についての修正事項がいくつかある。また、まとめの部分で、複数選択する設問があるが、選択肢を選ぶだけだと量的に計るだけになるが、優先順位をつけることで緊急度もみえてくるのではないか。

事務局：説明や趣旨については可能な限りわかりやすいものにしていきたい。記載の文言については、指摘を踏まえできる限り回答しやすい表現にするよう心がけたい。また、優先順位については市民ニーズを把握できることから、可能な設問は順位づけできるようにしたい。

委員：保護者が望む保育内容や利用金額についてアンケートで問わないのはなぜか。アンケート記載の説明書きでは、小規模保育や保育ママ、ファミリーサポートセンターにおける病児・病後児保育事業について実状がつかみにくい。

事務局：利用金額などについては、国が現在検討しており、今回のアンケート調査の趣旨とは違うので控えた。病児・病後児保育事業は、本市では現在よこばやし医院で行っていただいている。ファミリーサポートセンターは、会員同士で相互利用はあるものの、病児・病後児保育事業に特化した事業は行っていない。また、小規模保育や保育ママについては今のところ実施していない事業ではあるが、事業説明の記載については、検討させていただきたい。

委員：新制度についてどう思うかを問うのではなく、今後どういった施設を利用したいかを問うアンケート調査なので、詳しく制度について問うことは趣旨が異なると思う。保育料についてもこの時点で固定化するのではなく、公定価格が提示されてから、この会議で検討していくべきだと考える。今後、この会議は、子ども子育てシステムと、認定こども園のシステムと2本の柱で進めていく必要があるが、幼稚園や保育所などの施設だけでなく、在宅児にも視野を広げて、公平な負担を考えていかなければならない。

以 上